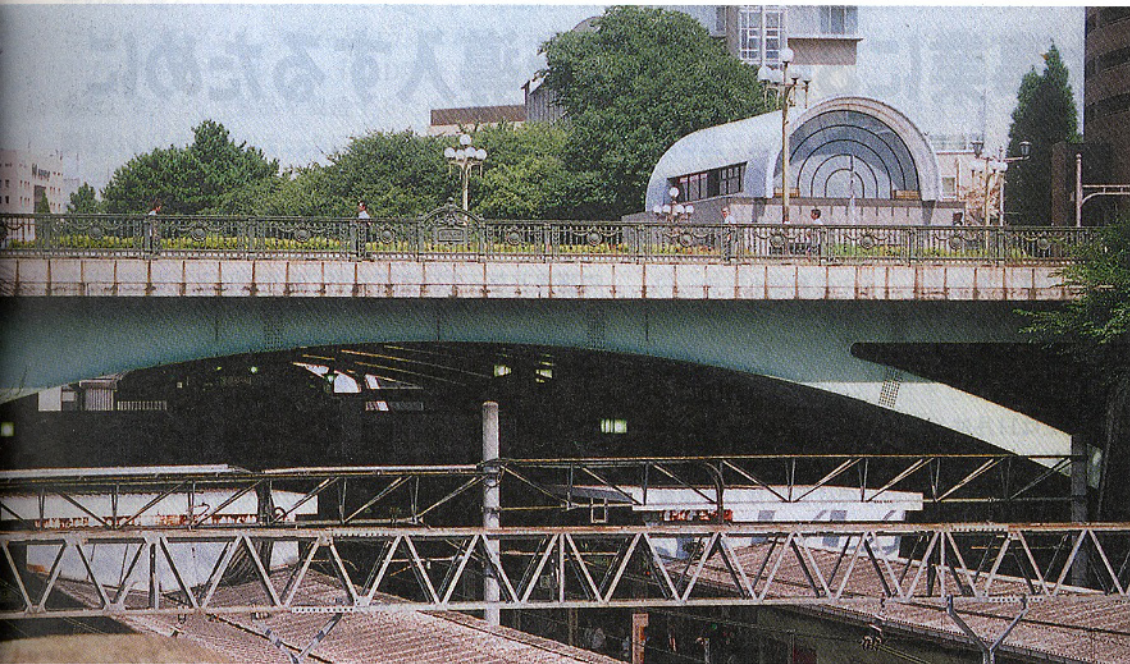


写真-5(上)現在の四谷見附橋(平成3年完成/方丈ラーメン構造)
写真-6(下)長池見附橋(移築復元された旧四谷見附橋)



付けになるかも知れない。

橋は一般に橋名板が親柱にあるものだが、ここでは、ヨーロッパ風に橋の中央。大変珍しいことで、さらに、橋名は漢字と竣工年月日の組合せ、外側はひらがなとローマ字の表記。ともに横書き。これまたこの橋の特色だろう。

時代と周囲の景観を意識して造られた見附橋は時の流れには勝てず、交通事情から道路拡張にともなって、架け替えすることになった。

平成3年(1991)架け替えが完成。長さが37mか

ら44mに、幅が22mから40mに変わった。可能な限り竣工当時の装飾が生かされた。旧橋と異なるのは橋梁のデザインで、主桁、橋脚、橋台を結合(剛結)した耐震性に富んだ方丈ラーメン形式が採用された(写真-5)。

解体された旧橋。資材を可能な限り活用して広大な面積を誇る多摩ニュータウンの長池公園の『長池見附橋』として平成5年(1993)移築復元された(写真-6)。橋のサイズは、旧四谷

見附橋とほぼ同じで、関係機関の計画と協力により、公園の自然と街と土木文化遺産が見事に一体化されている。

都心を離れ、再現された大正の建造当初の美しい品格のある橋を、いまそこに見る思いだ。公園の一隅から眺めていると、すでに新しい歴史を刻み始めている橋から、なにか創造の輪が広がるような、気がしてくる。橋はドラマを生む。

(参考資料:「よみがえる四谷見附橋改築・移築復元工事誌」
東京都建設局 住宅・都市整備公団 社団法人土木学会)